

平成28年度 第2回千葉県スポーツ推進審議会 議事録

開催日 平成28年11月24日(木)
 時間 14時～16時30分
 会場 千葉県スポーツ科学センター
 3階 第1研修室
 (千葉市稲毛区天台町323)

<出席委員> (敬称略50音順)

荒川 昇 黒川 仁美 高坂 俊介 浪越 一喜 畑佐 耕一郎 柳川 尚子

<オブザーバー>

石井 茂

<出席事務局職員>

千葉県教育庁

健康福祉部 健康づくり支援課 健康ちば推進班

障害福祉課 地域生活支援班

高齢者福祉課 生きがい活動推進班

農林水産部 安全農業推進課 食の安心推進室

商工労働部 観光企画課 観光企画室

県土整備部 公園緑地課 県立公園室

総合企画部 東京オリンピック・パラリンピック推進課 戦略推進班

東京オリンピック・パラリンピック推進課 国際スポーツ誘致班

企画管理部 教育政策課 教育立県推進室推進班

教育振興部 生涯学習課 学校・家庭・地域連携室

学校安全保健課 給食班

指導課 教育課程室

特別支援教育課 教育課程指導室

体育課

学校体育班

同

スポーツ推進室

スポーツ推進室競技スポーツ班

スポーツ推進室生涯スポーツ班

同

同

同

同

同

ちばアクアラインマラソン準備室

※報道関係者(取材) 千葉テレビ 1名

教育次長 神子 和夫

副主査 蒲生 忠明

副主査 市原 一樹

主査 及川 明美

主査 梅澤 利明

観光推進委員 池田 清則

技師 鎌田 斉

班長 天野 栄之

班長 小高 直子

副主幹 岡野 秀次

副主幹 高見 美樹

指導主事 後藤 将裕

指導主事 松井 小百合

指導主事 篠宮 輝幸

課長 山崎 成夫

班長 福田 武

指導主事 小澤 未知

副参事兼室長 北林 栄峰

指導主事 長谷川 泰一

班長 金子 保敏

指導主事 吉田 浩一

指導主事 田口 富一

指導主事 角田 淳

指導主事 堀江 俊介

副主幹 前田 達哉

副主幹 田中 康之

次第

- (1) 開会
- (2) 教育次長挨拶
- (3) 議事

〔報告事項〕

- (ア) 第31回リオデジャネイロオリンピック大会・リオ2016パラリンピック大会の千葉県ゆかりの選手の成績について
- (イ) 国民体育大会及び全国障害者スポーツ大会の結果について
- (ウ) ちばアクアラインマラソン2016の結果について

〔審議事項〕

第12次「千葉県体育・スポーツ推進計画」に関すること

- (ア) リンクA「子どもの体力向上と学校体育活動の充実」
- (イ) リンクB「運動・スポーツを楽しむための健康・体力づくり」
- (ウ) リンクC「スポーツ環境の整備」
- (エ) リンクD「競技力の向上」
- (オ) リンクE「東京オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツの推進」
- (カ) リンクF「スポーツによる地域づくりの推進」

- (4) 諸連絡
- (5) 閉会

配布資料

・資料1

- (ア) 第31回リオデジャネイロオリンピック大会・リオ2016パラリンピック大会の千葉県ゆかりの選手の成績について
- (イ) 国民体育大会及び全国障害者スポーツ大会の結果について
- (ウ) ちばアクアラインマラソン2016の結果について

・資料2

- 第11次計画の点検評価（平成27年度までの総括）
- 第12次計画の策定方針、概要 第2期スポーツ基本計画と第12次計画との比較
- 第12次千葉県体育・スポーツ推進計画（素案）

・参考

第12次「千葉県・スポーツ推進計画」指標（案）

スポーツ推進審議会 議事録

事務局

定刻となりましたので、始めさせていただきます。本日はご多用のところ、御出席いただきありがとうございます。会の進行を務めさせていただきます、体育課、北林と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、取材が1社入っていますので、よろしくお願いいたします。
本審議会への委員の皆様の出席は6名、4名の委員の方及び1名のオブザーバーの方から所用のため欠席する旨の申し出がありました。

本審議会は、千葉県スポーツ推進審議会条例第5条第2項に規定されております「半数以上の出席」という条件を満たしておりますので、成立いたします。

それではただ今より、平成28年度第2回千葉県スポーツ推進審議会を開会いたします。
はじめに、千葉県教育庁、神子和夫 教育次長より御挨拶を申し上げます。

教育次長

本日は、御多用のところ、また季節外れの雪が降るといってお足元の悪い中、皆様には御出席いただきまして誠にありがとうございます。

また日頃から、本県スポーツの推進に御支援・御協力をいただきまして、厚くお礼申し上げます。さて、約1カ月前の10月23日に開催されました「ちばアクアラインマラソン2016」におきましては、約16,000人のランナーがアクアラインの絶景に感動し、県民による沿道のおもてなしに勇気づけられたと感想をいただいております。また完走率も91.2%と過去最高となりまして、沿道の観戦者は、約36万人という大変な盛り上がりの中、無事終了をすることができました。

また、「希望郷いわて国体」におきましては、千葉県開催の「若潮国体」「ゆめ半島ちば国体」を除くと過去最高タイの結果となる、天皇杯5位という成績を残しました。これは昭和59年以来、32年ぶりの快挙となります。

さらに、リオ・デ・ジャネイロで開催されましたオリンピック・パラリンピック大会におきましては、本県ゆかりの選手がオリンピックでは3名、パラリンピックでは10名、メダリストとして輝かしい結果を残しました。金メダリストの3名には、先頃「千葉県民栄誉賞」を授与したところです。

次なる2020年東京大会に向けて、県としても着実に準備を進めてまいりますが、併せて全ての県民が多面にわたるスポーツの価値を基盤にしながら、健康で活力ある生活を送り、互いに支え合うことでスポーツ立県ちばの一層の推進を目指していく所存でございます。

本日の会議では、第1回推進審議会を受けまして、策定検討ワーキンググループ会議、リンク分科会、審議会委員の皆様へのヒアリング等を通して検討してきたことを「第12次推進計画」として、より具体的に御審議をいただく予定となっております。委員の皆様には、専門的な視点からの御指導、御助言をお願い申し上げます。簡単ではございますが挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いをいたします。

事務局

それでは、議事に入る前に、資料の確認をさせていただきます。

平成28年度第2回千葉県スポーツ推進審議会の次第及び座席表が1部ございます。

本審議会を開催するに当たって、根拠となる、スポーツ基本法及び千葉県スポーツ推進審議会条例でございます。「資料1」は、報告事項（ア）・（イ）・（ウ）の冊子です。

「資料2」は、審議事項に関するものです。第11次点検・評価（平成27年度総括）第12次計画の施策方針、概要、国の第2期スポーツ基本計画と第12次計画の比較です。そして、第12次千葉県体育・スポーツ推進計画（素案）です。

過不足がございましたら、事務局までお申し出ください。それでは議事に移ります。議長については、荒川会長をお願いいたします。

会長

それでは、次第に沿って、議事を進行させていただきます。

まずは、報告事項です。事務局、お願いします。

事務局

報告事項は、各担当者から説明させていただきます。

はじめは、第31回リオデジャネイロオリンピック大会・リオ2016パラリンピック大会の

千葉県ゆかりの選手の成績について御説明いたします。

資料1、報告事項（ア）を御覧ください。リオデジャネイロオリンピックは、8月5日から21日までの17日間開催され、本県ゆかりの選手は41名出場し、体操男子団体に加藤選手と田中選手が、また柔道90kg級でベイカー選手が金メダルを獲得したのを始めとし、7競技で18名が入賞し県民に元気と勇気を届けてくれました。また、9月7日から18日までの12日間で開催されたパラリンピックでは18名が出場し、ボッチャのチーム戦に出場した廣瀬選手と自転車のロードタイムトライアルにパイロットとして出場した田中選手が銀メダルを獲得した他8名が銅メダルに輝く等、7競技で13名が入賞する素晴らしい活躍をしました。オリンピック・パラリンピックを問わず、最後まであきらめずに必死にプレーする選手の姿やメダルを獲得したときの素晴らしい笑顔に私たちは多くの感動をいただきました。

リオの次は、いよいよ東京です。東京大会での更なるステップアップを目指し、引き続き競技団体と連携して選手強化に取り組んでまいります。

次に、第71回国民体育大会「希望郷いわて国体」の千葉県選手団の結果について報告いたします。報告事項（イ）を御覧ください。第71回国民体育大会は、冬季大会・本大会共に岩手県で開催されました。平成7年に開催された福島国体以来、21年ぶりの全競技が同一県内で開催された完全国体となりました。

本県は、総勢601名の選手団を派遣し、男女総合成績天皇杯得点1676点で第5位、女子総合成績皇后杯得点919点で第7位の成績を収めました。天皇杯は、昨年に続きの連続入賞、皇后杯は8年連続入賞を果たしました。天皇杯5位の成績は、優勝した千葉県開催の昭和48年若潮国体、平成22年のゆめ半島ちば国体を除けば、過去最高タイの結果となります。昭和58年、昭和59年以来、32年ぶりの好成績になりました。

次のページを御覧ください。47都道府県の順位です。東京都が天皇杯皇后杯共に獲得し、開催県の岩手県はいずれも2位の成績でありました。国体開催決定後に東日本大震災が発生し復興に向けての厳しい状況の中、よく頑張ったと思います。また、来年度開催県の愛媛県が7位と躍進し、一時本県とのデットヒートを展開いたしました。

次のページを御覧ください。本県の競技別の成績です。12番目の体操、38番目のボウリング競技が天皇杯得点で、14番目のレスリング、38番目のボウリング、40番目のトライアスロン競技が皇后杯得点で1位を獲得し、天皇杯得点では18競技が、皇后杯競技では16競技が入賞を果たしました。水泳、ウエイトリフティング、馬術、トライアスロンの4競技では、リオデジャネイロオリンピックに出場した7選手の活躍もありました。最近では最もよい成績であり、また、来年度の入賞に向けて頑張っております。

続きまして、第16回全国障害者スポーツ大会「希望郷いわて大会」の結果について説明いたします。平成28年10月22日から24日にかけて、岩手県において第16回全国障害者スポーツ大会「希望郷いわて大会」が開催されました。千葉県では、リオ2016パラリンピック大会に出場した4名を含む選手62名、役員43名、総勢105名の選手団を派遣しました。成績は、62個の金メダルを獲得し、昨年の和歌山大会に続き、東京都に次ぐ、全国第2位の成績を収めました。また、陸上競技種目10種目、水泳競技8種目、合計18種

目、18の大会新記録が樹立されました。個人競技参加55選手の半数以上の39名が金メダルを獲得したという素晴らしい成績を収めていただきました。

来年は、愛媛県で第17回全国障害者スポーツ大会「愛顔（えがお）つなぐえひめ大会」が平成29年10月28日～30日の3日間で開催されます。この全国大会を目指して、千葉県障害者スポーツ大会において白熱したプレーが繰り広げられますので、ぜひ皆さん御期待いただければと思います。

報告事項（ウ）を御覧ください。

「ちばアクアラインマラソン2016」が平成28年10月23日に開催されました。

大会当日は、「海を走ろう アクアラインの風に乗って」のキャッチフレーズ通り、さわやかな風を受けながら15,851人のランナーがアクアラインを笑顔で駆け抜け、空と海に囲まれた大パノラマを楽しんでいただきました。

また今回、新たに車いすハーフマラソンを正式種目とし、リオネジャネイロパラリンピックでも活躍された選手にも参加をいただきました。

さらには、34の国と地域から480名のランナーが出走する等、国際色豊かな大会となり、国内外のランナーがアクアラインを疾走し、元気にフィニッシュされました。

沿道には、前回を上回る約36万人の方々を訪れ、盛大な応援がランナーの励みになると共に、県産の農産物等によるおもてなしスポットやイベント会場でのおもてなしがランナーや家族にも好評でした。

地元小中学校の生徒による元気な声、高校生のダンスや演奏のパフォーマンス、地元自治会や企業の皆様を中心としたボランティア他、総勢8,000名を超えるスタッフが日本一のおもてなしの心を持ち、力を合わせて大会運営をしていただいたことで、ランナーは元気づけられ、走る意欲が増し、本大会の完走率91.2%と完走率の向上につながったのではないかと思います。

本大会は、本県のスポーツの発展はもちろんのこと、多くのメディアにも取り上げられ、東京湾アクアラインと千葉県の魅力を国内外の多くの皆様に発信することができたのではと感じております。開催に多大な御支援、御協力をいただいた皆様に、そして応援に駆けつけていただいた皆様に、改めて感謝申し上げます。

会長

ただ今、報告事項を一括してお願いしました。委員の皆様から何かございますか。（なし）

それでは、審議事項に移ります。審議事項は、第12次「千葉県体育・スポーツ推進計画」の策定にかかる審議となります。素案となる冊子は、事前に皆様のお手元に届いておりますので、これまでに目を通していただいていると思います。進め方としては、リンクA～Fをひとつずつ事務局が説明し、その都度皆様から御意見をいただきたいと考えます。目安として1つのリンクを15分程度としたいと思います。本日は、推進計画の策定ワーキングのメンバーも出席していますので、遠慮なく御意見や御質問をしてください。リンクCまで終わりましたら、少し休憩を取りたいと思います。

それでは、まず、これまでの策定の経過について簡単に説明してください。

事務局

資料2、審議事項を1枚めくってください。第12次を策定するに当たり、第11次を踏襲すると共に、国の第2次スポーツ基本計画とベクトルを合わせたという方針で、策定してまい

りました。

お手元の資料2を1枚めくっていただき、第11次の点検と評価を御覧ください。前回の審議会でも報告しました4年間の取組における各指標の変化の平成27年度末現在の状況です。平成28年の総括はまだできておりませんが、第12次では、これまでの第11次を元として、向上している成果については、継続しながらより発展を目指し、改善しなければならない課題については、引き続き取組むと共に新たな取組も検討しました。

また、オリンピック・パラリンピックの開催、現在策定中のスポーツ庁における第2次スポーツ基本計画の案を参考にしながら現時点において、体育・スポーツに期待される事柄を踏まえ策定をしております。

次に、策定方針を御覧ください。第11次のそれぞれの冊子は、点検・評価の相関図を現状の課題を上段に、ゴシックで書いてある部分です。そして、下段に課題を記載しました。丸を付けて下段に書いております。その課題を解決すべく、その右側にございます第12次のそれぞれのリンクの施策といたしました。

3枚目、次のページでございます。策定の概要を御覧ください。施策、目標、取組については抜粋ですが、朱書きした部分が新たな施策及び取組です。

なお、4枚目、参考資料としまして、第2次スポーツ基本計画が左側の部分に、二重線で囲ってあるものです。それと第12次の推進計画の比較をしました。

なお、第2期と第12次の比較を策定したときから少し時間がたっていて、少しずつまた文言が変わってきているようです。たとえば第2期スポーツ基本計画の上から3つ目2の(1)「スポーツを通じた」というところです。「共生社会・健康長寿社会の実現」と書いてありますが、11月18日に行われました国の審議会では、「共生社会等の実現」と変わっています。その2つ下、2の(3)ですが、「スポーツを通じた国際社会の調和ある発展への貢献」というように少し変わってきているようです。また、一番下になりますが、「国際競技力の向上に向けた協力」は、こちらの単純なミスですが、「国際競技力の向上に向けた強力で持続可能な人材育成や環境整備」というように少し変わってきているものが見受けられます。比較ということで参考にして頂ければと思います。次回は、このようなことがないように資料を提出したいと思います。

それぞれのリンクの説明につきましては、現状や課題から説明をさせていただきまして、そのための取組として、新たなものを述べさせていただきます。これまでの取組と合わせて委員の皆様には、トータルの方針にさせていただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

会長

それでは、早速リンクごとの検討に入りたいと思います。
まず、リンクAについて説明してください。

事務局

お手元の、以前にお配りした素案を御覧になっていただければと思います。またポンチ絵の方もございますし、今御説明しました策定の方針についても御覧になっていただければと思います。

リンクAは、「子どもの体力向上と学校体育活動の充実」としました。

平成27年度の第11次の点検評価としましては、新体力テストは49.3点と、ほぼ目標の50点にとどいています。しかし、握力と投力の低下傾向が見られることから、この対策を講じると共に体育の授業が好きというような児童生徒が増えるよう教科体育の充実を図ることが必要であると考えています。

遊びの中で体を動かすことの必要性の啓発、運動することそうでない子との2極化、スポーツ好きの児童生徒の育成、運動部活動の諸問題、栄養の中身や食べ方等の食育、以上は、引き続き課題であることから、第12次の(1)幼児期における運動習慣の基盤作りから(5)心身の健全な発達に向けた食育の推進を施策とすることとしました。特に、幼児期の家庭における運動遊び、スポーツを1時間以上実施する割合が、平日は27.2%休日は53.7%、全体として40.5%ということから、第12次では、保護者への外遊びの啓発や幼稚園教員への指導をするために(1)の幼児期における運動習慣の基盤作りとしまして、幼児教育アドバイザーの活用を新たな取組としました。また、運動部活動の加入率が中学校68.7%、高校41.8%と低下しています。生徒の多様化するニーズ、教員の高齢化と専門性、多忙化、こういったものを解消や対応のために(4)の運動部活動の充実として、その受け皿の一つとして、総合型クラブとの連携を新たな課題として加えました。

それでは、リンクAについてご審議ください。

会長 委員の皆様から、事前にいただいた資料をお読みかと思しますので、御意見御質問、何でも結構ですから出していただきたいと思います。かなり範囲は広いですが、順序は問いません。

委員 幼児教育ですが、一番上に幼児教育を掲げていただいたことはすごく嬉しく思います。資料は、すごく良くできていますが、一つ欲を言うとリンクAとリンクFとのつながりが必要だと思えます。やはり、小学生ぐらいだとトップアスリートを見ることで、自分もやりたい気持ちになっていくので、小中学生はみんな見せて、やる気を高めてやりたい。甲子園でも、バックネット裏で小さな子どもが見ている。千葉県もそういう大会があったら、忙しいでしょうが、時間をとっていただいて、そういうところに行ってみ学をするは、親もそういう気になってきますから、親と子が一体となって、やっていくことから、AとFのつながりをより強い色にしていきたいです。

会長 事務局の方で考えている色の濃淡、つながりについて、どういう考えで作っているか簡単に説明をお願いします。

事務局 濃淡につきましては、リンク会議を開きまして、ワーキンググループの事務局の方で関係されている方々が集まっていただき、そこにまた関係するのではないかという他のリンクのグループの方と話し合いをした結果です。縦と横の関係が必ずしもイコールになっていませんが、今後意見を参考にしてもう一度見直していきたいと思えます。

会長 運動部活のことですが、最近マスコミ等でよく部活動が個々の教師にとって非常に荷重な負担に

なっている、専門の指導者がいない、ということで取り上げられることが多いが、この辺のことはどうでしょうか。

事務局 エキスパートの派遣について、現在、高校に限定した派遣をしています。当初は国からの補助もあって小中合わせてやりましたが、その後、県と市町村の役割を分けることと国からの補助がなくなって、県立高校では、40名の派遣で実施し、年間一人あたり24回で進めています。数年前まで、50名でしたが予算的な関係で40名になりました。学校からの要望も40名くらいで収まっています。

委員 地域性はあるが、千葉市では、小中学校で予算化されていて、今はほぼ足りていると思います。20代の指導者が増えていまして、逆に若手の指導者の指導力不足がいま課題になっている問題があります。県と一緒に若手指導者の指導が急務の課題です。マスコミは騒いでいますが、それほどでもなく、大会等はスムーズに運営されていて問題はありません。競技力の向上の方も、82名が優秀選手賞を受賞しています。全国大会3位以内、関東大会優勝がその資格です。例年50名ですが、サッカーが入ったので多くなり、個人より団体にいい影響を与えていると思っています。

もう一つ、特殊業務手当の待遇も3,600円と改善されました。部活動を率先してやっている者も多いと思います。

事務局 部活動の指導も含めて教員の多忙さは、中教審でも話題になっています。国の二期の基本計画の中にも、施策に上がっています。引率もできるような部活動指導員制度が計画の中に盛り込まれています。千葉県も、国の制度を踏まえた上で、千葉県独自の踏み込んだ制度はできないかと意見をいただいているところです。

会長 千葉県は大丈夫でしょうか。

事務局 中学校では、専門的な指導者ではない教員が半分以上いる実態があり、荷重になっている面もあると思います。

委員 オリパラ教育の充実を取組の中に入れていただくのは難しいことでしょうか？2020大会の取組には当然入っているが、2020年以降に残すのには、学校教育に入っているのも重要だと思います。

事務局 リンクEの、具体的な取組に記述されています。再掲はこだわりませんので、いろいろなどころに出てきて良いと思いますので、Aの学校教育に盛り込むのは考えています。

会長 次にBに入ります。

事務局 リンクBは、「運動・スポーツを楽しむための健康・体力づくり」としました。点検評価におきまして、成人の週2回以上のスポーツ実施率は、45.8%であり目標の60%にはほど遠い現状です。60歳以上は76.0%と高いのですが、20代から30代が35.0%、40歳代から50歳代が40.6%と低いことが明らかです。高齢社会におきまして、

健康寿命を伸長させ、自立した生活を送るためには、児童生徒からのスポーツ好き、成人におけるスポーツ習慣が一本の線としてつながっていなければいけません。(1)は、ライフステージに応じた運動・スポーツの推進とし、運動習慣の定着の取組と共に新規としまして、身近にスポーツの行える場として総合型地域スポーツクラブとの連携を加えました。また、(2)は、障害のある人の運動・スポーツの推進を施策とし、特別支援学校の体育的施設、用具の活用により生涯に渡ってスポーツ活動を楽しむための基盤作りを推進するというようにしました。

会長 この部分の質問、意見をお願いします。

委員 ロコモティブシンドロームは、取組というよりは、思想の一つとして考えた方がよいと思いました。周知というのは、まず知ってもらって、その後に取り組んでもらいたいことなので、知ってもらうのが目標になっているイメージを受けました。自分が思っている以上にロコモティブシンドロームは知られているので、一歩進めて、そうならないようにするための取組も考えていった方がよいと思います。具体的な取組は、こういったところは健康作りの担当課と一緒にやっていくところだと思います。

今回、この部分はとても良くなっていると思っています。総合型クラブという受け皿が想定され、そういうところで運動ができますよと一連の流れがある。しかし、働き世代へのアピールが弱いと思います。親子で取り組める事業や情報提供や千葉県の自然を生かすのはよいが、スポーツイベントが1、2回ではなかなか恒常的に習慣化されないのならば、情報提供をきちりやっていき、いろいろな自治体のスポーツイベントが分かるようにした方がよいと思います。それと、食育に何らかの働きかけができると良いと思っています。20～50代を意識した健康体力作りの取組になっていると良いと思います。また、クラブへの流れもスムーズにさせたいと思います。せっかく知られてきていることなので、働き盛りの人たちへの情報発信ができるような情報の充実ができたらいと思います。

委員 働き盛りのスポーツ、民間企業との連携、情報を積極的に発信しイベントへ積極的にいけるようにすることは、県の取組としては意識をもって取り組んでいくと良いでしょう。

事務局 働き世代と情報発信は考えていきたいです。

委員 厚生労働省では、アクティブガイドで「プラス10」というもの出していて、1日10分でも良いから、今より運動をすることを進めています。体育課からホームページのリンクを張って興味を持ってもらい、意外とお手軽なんだと分かってもらうと良いと思います。

会長 老人クラブでのシニアスポーツの推進とあるがどのような状況でしょうか。

事務局 老人クラブでスポーツ大会を行っており、地区から勝ち上がってきた人が県でシニアグラウンドゴルフ大会、シニアペタング大会等やっていて、ねんりんピック参加に結びついています。ねんりんピックは、広い分野になり、ラクビーやサッカーとかテニス等あります。その一部が老人クラブで行っているものを対象にしています。

老人クラブは減りつつあります。積極的に勧誘しているが全国的な傾向です。文化的な活動や助け合う活動も行っています。

会長 リンクCに移ります。

事務局 リンクCは、「スポーツ環境の整備」としました。
点検評価におきまして、総合型クラブは、27年度末におきまして、33市町、77クラブ、21,480人が会員として活動しています。28年度は半分が過ぎ、その数は少し増えている現状が見られますが、今後未設置市町村への啓発、継続性、会員未会員の人数に応じた情報提供を行っていきたいと思います。

総合型クラブの認知度は9.9%と10人に1人しか知らないという非常に低い状態です。認知度を向上させて、総合型クラブが自分にとってどういうメリットがあるかを周知していかなければいけないと感じています。

指導者の年齢とか専門性、人数。施設の老朽化、耐震化。ユニバーサルデザインに対応しているか。スポーツのルール変更への対応等も大きな課題で、人、施設、場、システム、情報の視点から施策1～3までを立てました。特に、3のシステム作りの推進については、総合型クラブで、障害者スポーツへの取組を新たに加えました。

運動部活動の受け皿、身近にあるスポーツのできる環境として、総合型クラブの役割が益々大きくなると思われます。国においても、量的拡大から質的充実を目指しているようです。リンクCについて御審議ください。

会長 Cについて何かありましたらどうぞ。総合型クラブの現状というか未設置市町村の現状に変化はありますか。

事務局 今現在は33市町ですが、数的には少しずつ増えてきています。

会長 数ではなく未設置市町村は減っているでしょうか。

事務局 減ってはいない現状です。

課長 残っているのは、北総エリアから九十九里にかけての東上総地区、外房にかけてのエリアが多いです。幸いなことに成田市では、今年度中の設置に向けて、今動きだしています。茂原市、山武市でも設立への気運が高まって、我々も勉強会等に出向いています。もう少し時間はかかるかもしれないが広がっていければと考えています。

委員 認知度の9.9%を高めたいです。ロコモの話ではないが、知ってもらわなければ、なかなか意識は向かいません。平成7年から20年くらいやっているのに、知られないことについて、県だけでなく国も考えなければならないかと思います。総合型クラブ未設置市町村にアプローチするのも大事だが、今あるクラブで何か目指すところのあることを1箇所やってみてはどうかと思いました。たとえば、アクアマラソンにたくさんの人がある。そこでクラブ全体で1個ブースを出してみるとか、何か役割を担っていただくとか、県内のクラブの人たち自身がいまみんなで何か1個できるものを目標として定めることによって、自ずとネットワークや連携みたいなものを作ってみるのも一つだと思います。

闇雲に、ネットワークを作りましょう、勉強会をしましょうと言っている、そこから目指

すものがないと、皆様もわからないでしょう。また、計画とは違うかもしれませんが、1つでも2ついいので、ちょっと特徴があるクラブを作って、事例として、こういうクラブがあることを県民に知っていただき、総合型クラブってこんなことができるというように周知すれば、変わってくると思います。

会長 国も、量から質へと変化している。千葉県でも、どこがまだ未設置ということを知りますが、数ではなく中身になってきたのではないのでしょうか。何をやったらよいかを詰めていかななくてはならないと思います。

委員 船橋に住んでいますが、隣が船橋整形外科でバスケットのスポンサーをやっていて、プラスアルファで老人が20分ぐらい運動できる施設を作っています。スポーツだけではなく、医療とスポーツが提携して、「運動が大切だよ」「成人病がなくなるよ」と、医療の面と一緒にやってやると効果があると思います。

委員 無理矢理やっていくというか、パイロットクラブを作るのも気持ちは分かりますが、本来の総合型クラブの在り方等を考えると、それもあかなと思う自分と、筋は間違っているという自分がいて、結論が出せません。ただ、千葉県も取組として頑張っているし、それは行政の担当の課長なりが変われば、変わることもあり、人にゆだねられているところなので、期待して待たなければならないでしょう。

最近、持続可能という言葉がキャッチフレーズのようにできていますが、平成26年から今あるクラブを存続させていこうという流れに文科省も日体協も移行しています。逆に言うと、できたクラブをつぶさないようにするということがこれからの全国的な課題だと思います。

全国的にクラブ数は減っているが、兵庫県が阪神淡路で、地域のつながりを大事にする中で、半強制的に小学校区に一つずつ無理矢理作ったクラブがだんだんに機能してきたなかでは、1つではなく隣近所の2つ3つをきちんと効率よく使えるように考え直すと、クラブ数ではなく、実質動けるようにしていこうということで、数字ではなく実態としては、町にあった、こっちの体育館ではバレー、こっちの体育館ではバスケットというように、小学校に1つずつだとできないことも体育館等を融通しあって使えるようになっていて、現実的に続いていく方向に変わりつつあります。千葉県もまず今あるクラブを大事にしながら、市によって違いがあるが船橋や習志野では総合型クラブが知られているが、九十九里の方に行くといくつかそれは、という現実はあるが、働きかけは必要だと思います。焦らずにそういうスタンスでいけばよいだろうと思います。20年もという話もあったが、文科省としては珍しく踏ん張っていて、失敗もあった中、根気よく総合型クラブを育てて、100年続くクラブにしていく気持ちがあるのかもしれないと思います。

事務局 今あるクラブを大事にするということはもちろんやっていきたいと思っています。柏に、スマイルクラブという皆さんご存じのクラブがありまして、中学校の部活の受け皿になっているようなところ、他のクラブと変わらない部分も多々あるんでしょうけれど、その中で障害者スポーツの受け皿として活動しているクラブがあります。障害者の方たちにスポーツをするだけでなく、講習会を開いて、障害者の方をサポートするボランティアを養成するようなことをやられているようです。クラブのオリジナルなものをこれからは生かしていきたいなと思います。

会長 一応、Cまで来ました。ここで一区切り、休憩にしたいと思います。

事務局 すみません、先ほどの現在の老人クラブの数ですが、2700クラブで会員数が11万7000人います。実際の千葉県の65歳以上の高齢者は、150万人います。高齢者は増えていますが、会員数は減っている現状です。

会長 それでは、10分間休憩で、20分に再会します。

会長 再開します。リンクDについて事務局お願いします。

事務局 リンクDは、「競技力の向上」としました。
現状に於いては、先ほどの国体の報告のように、競技力は、維持できていると思われます。これまでの取組を継続していきながら、恒常的によりレベルアップを目指して行きたいと考えています。このような中、第12次におきましては、(1)選手の発掘・育成・強化及び指導者の養成・資質向上の施策の中で、パラリンピックを目指した障害者競技スポーツの競技力向上に新たに取り組んでいきたいと考えております。また、(5)競技会開催等の充実の施策の中で、2020年東京大会や事前キャンプ等への協力も行っていきたいと思っております。さらに(6)競技スポーツの好循環とかきましたが、そこにおきましては、トップアスリートの持つ高度な技術や経験を次世代に伝える取組、単にスポーツをするのではなく社会を牽引していくというプログラム、或いは、スポーツマンシップ、ジュニアアスリート育成モデルの構築、こういったものも取り組んでいき、競技スポーツの好循環といったものを考えていきたいと思っております。

会長 リンクDについて、どうでしょうか。

国体・障害者大会で千葉県は上位にあるが、そこに掲げている施策について何か質問御意見はありませんか。

委員 「好循環」という言葉にあまりこだわらなくても良いかと思っております、国もそんなに表だって最近言っていないように思います。総合型クラブでアスリートのセカンドキャリアをまかなおうとするのだとしたら、そのクラブで育ったアスリートなら喜んで受け入れると思いますが、全く関係のない方が急に来てもなかなか難しいと思います。派遣ならJリーガーとかプロの選手とかオリンピックで名前の方だったら子供たちもとても喜んでくれると思うんですが、そうでない方だと長続きするのが難しいのかなあという感じを受けているので、あまり好循環という言葉にこだわらなくていいと思います。その代わり今回、教育プログラムのことが入っているのはよいことだと感じています。アスリートの方たちがクラブや学校現場に行くことだけがセカンドキャリアではないので、アスリートの方たちが自分のスポーツのキャリアを生かしていくのも1つですが、そうじゃないことにも自分の力を生かしていくということもあっていいと思うので、教育プログラムの推進というのが入ったのは期待しています。

事務局 もともと、好循環という言葉は、スポーツ基本計画第1次前期分のところで今後10年間を見通した施策の中の1つの柱として、その後一時、市民権を得るような感じでいろいろな

ところで使われていたという印象がありますが、それを私たちも引き継いで、現段階ではこのような形になっております。施策の柱で割と重要な位置づけだととらえています。新しい基本計画では、今後10年間というものの中長期的なスポーツ施策の基本方針として4つに再編されています。この中で、好循環という言葉は、1箇所だけあるんですが、それは、成長戦略と絡めた経済のところに使われています。ですので、当初の我々が考えている、トップ選手、地域スポーツの好循環とは、少し中身も変わりつつあるのかもしれませんが。その辺も含めまして、事務局の方の宿題として承らせていただきます。

会長 アンチドーピングの具体的施策はどうでしょう。

事務局 アンチドーピングに関しましては、最近スポーツファーマシストというような方もいるようで、そういった方たちを活用しまして、防止教育を進めていきたいと思っておりますし、国体出場選手を対象とした活動も行っております。

会長 国体選手については、教育啓発をずっと前からやっていると思うんですが、小中高の生徒へ対しての啓発はあるのでしょうか。

事務局 実はJADAが今一生懸命それをやっています。JADAが開発したアンチドーピングというよりももう少し範囲を広げてスポーツのフェアの部分であるとか、インテグリティにかかわるところを取り組んで、道徳教育のようなニュアンスを持たせながら教材化したものが実際既にできあがっています。実はJADAとスポーツ省の課長補佐からも千葉県で協力できないかという話をいただきながら、現在体育スポーツ学科やコースがある高校、県内で12校ぐらいありますが、その連絡協議会の中で、実際にJADAの担当者に来ていただきまして、モデル校という形で、この事業を受け入れてくれないかということで、少しずつ動き出しているところです。モデル校で授業をやって、そこに他の学校の先生方が道徳教育と同じようにするパターンを今考えていますが、やがて中学校へと進めて行ければよいというところです。

オリパラムーブメントとの関連を含めて、リンクA等の中でも関連してやっていけるのかと感じています。

会長 ぜひ進めてください。

委員 私が思っているだけですが、1～6が細かく分かれすぎている気がします。いろいろなことが絡み合いながら競技力って向上すると思うので、3つぐらいにして、1つ目がタレント発掘、2つ目が競技力を向上させるための環境作りとして、環境整備、スポーツ医科学とか組織の充実とか、競技会開催みたいなものを全部入れたものを環境作りとして、最後にアスリートのための教育とか施策とかまとめた方が分かりやすい気がしました。総花的でありすぎかなと思いました。

事務局 リンクDについては、千葉県競技力向上推進本部が、競技力向上事業を中心的にやっているところですが、そこが持っている総合計画とまさにリンクしています。これまでの11次計画でも、柱3の競技力向上については、競技力向上5ヶ年計画とリンクして同じくしてやってお

りました。その関係もあって、競技力向上推進総合計画も28年度までが第二期の計画で今へ移行して来年度からの5ヶ年計画を作成しているところです。そこリンクDがまさにリンクするというので、そちらの柱立てが今のところ細かく分けられているところです。まさに競技力向上推進推進計画ですので、あんまり束ねてしまうより、一つ一つそれについて予算、現在のことも散りばめられていますのでこんなつくりになっています。御意見は、競技力担当とも相談してまとめられる部分があったら考えてみます。

会長 続いてEに入ります。

事務局 リンクEは、「東京オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツの推進」としました。第12次の大きな特徴は、障害者スポーツ及び超高齢社会に備えたスポーツの推進とあわせました。オリンピック・パラリンピックアスリート強化支援については、海外遠征等への強化支援、障害者スポーツ選手の掘り起こしについて取り組んでいきたいと思います。2としてスポーツを通じたネットワークの充実・拡大については、JOCオリンピック教室への協力、国際理解・国際交流の促進に取り組んでいきたいと思います。そして3として、誰もが参加できるみんなのスポーツの推進につきましては、アスリートのキャリアやネットワークを活用した地域スポーツの推進に取り組んでいきたいと思います。

東京オリンピック・パラリンピック選手にとっては、非常に大きな目標ですが、ほとんどの人にとっては、スポーツの価値や可能性を享受するための一つの手段であるかと思います。終了した後何が残るかを見据えて取り組んでいかなければならないと感じております。

会長 Eについて御意見御質問はありませんか。

委員 施策2で、JOCと連携したオリンピック教室と特出しをしているのでJOCの人はありがたいことではありつつも、他の書きぶりやだいたい違ってしまうのでここだけJOCの主催事業がそのままここに書かれているので、この辺りはJOCと連携したオリンピック教室の推進とか他のところと書きぶりを合わせていただいた方がいいと思いました。一方で、オリンピックだけでいいのかというのがありますので、JOCを前面に出していただく必要はありませんので、オリンピック・パラリンピックの推進という形でもかまわないと思います。

会長 事業名を出すより、連盟とか大きな枠組みでということですね。

委員 県の方は、フェンシングと車いすフェンシングを一緒にしていますが、オリンピック・パラリンピアンを派遣を頼まれても、実際にはパラリンピアンを派遣ができません。JOCとJSCの組織は一緒になる機会もあります。4月に厚生労働省と文科省がスポーツ庁になっていますがまだ一緒になるには時間がかかります。

オリパラを契機としたスポーツの推進とあるのに、1番に強化支援が来ているんですが、施策2の言葉として入っているものがオリパラと結びつきにくい。2と3は、レガシーのことだと思います。「オリンピックレガシーとして誰もが参加できるみんなのスポーツの推進」とまとめてみてはどうでしょうか。多くの人々がオリンピックそのものに参加するわけではなく、ボランティアであったり見たりして楽しむわけなので、オリパラを契機として「見る」「楽

しむ」を底上げする施策が入ってもいいと思います。

会長 Eは、初めて独立して入ったものですね。

事務局 成果と課題を引き継いだのではなく、新たに盛り込まれたものです。

会長 スポーツツーリズムとはどうかかわるのですか？

委員 当初は、スポーツツーリズムではなくサイクルツーリズムでした。言葉の問題で、もっと広
いなかでスポーツを推進していこうという話し合いで、スポーツツーリズムになりました。今
後、検討も必要です。

委員 千葉県ゆかりの選手を多く輩出することは素晴らしいが、選手をなかなか知っていただく機
会がありません。関東の都県の特徴でもあるが、メディアの問題があります。宮城県は仙台放
送が6時からのニュースで、30分は地元のニュース、10分はスポーツ関係で、地元選手を
取り上げています。関東ではこのようなことがありません。せっかく千葉県ゆかりの選手がい
ても、なかなか知っていただく機会がないです。ここは、積極的に努力されるべきだと思いま
す。

会長 ホームページでインタビューをやっていますが、今の意見をもとにメディア発信力をつけて
いきたいと思います。

委員 広報はとても大事だと思います。例えば千葉駅やそごうに協力してもらうことはできないで
しょうか。例えば、通路や壁にパネルを置かせていただくようなことです。スポーツではない
現場に情報が露出できないと見てもらえないと思います。

事務局 マラソンポスター等JRにお願いしていますが、もっと日常的に利用するということですよ
ね。

会長 地方の場合は、地元の人が応援しようという気持ちになるようにしています。

事務局 隔月に、エールスポーツという千葉県のスポーツ情報を特集している情報誌があります。タ
イムリーにいろいろな話題を上げていて我々も助かっています。ゆかりの選手のコーナーがあ
ります。また、千葉銀行が月刊誌でよくスポーツ選手をクローズアップしています。こちらと
連携する仕掛けを、協力してどこかでやっていくことを検討してみたいと思います。

会長 新しい内容なのでぜひ力を入れてください。続いてFに入ります。

事務局 リンクFは、「スポーツによる地域づくりの推進」としました。点検評価においてスポーツ
大会、イベント等の参画、「みる・する・支える」意欲は、増加傾向にありましたが、より、
するスポーツ、支えるスポーツの主体的な意欲を高めていくことが必要だと思っています。

1として、「プロスポーツと連携した地域づくりの推進」について、現在キャリア体験の場

として、千葉ロッテマリーンズさん、千葉ジェッツさんと、ちば夢チャレンジパスポート事業を行っています。また、学校にトップアスリートを派遣するちば夢チャレンジかなえ隊事業を行っていて、児童、生徒や保護者、学校関係者から非常に好評です。今後も、ロッテさん、ジェッツさん以外のトッププロスポーツ団体と連携して情報交換をしながら相互にとって有益な事業を展開していきたいと感じております。

2として「スポーツイベントを活用した千葉の魅力発信」について2020年東京大会を活用した国際交流イベントを開催します。これは、するスポーツばかりでなく、ささえるスポーツの推進にも関係するという取組です。スポーツの実施率を上げ、興味関心を持ってもらうためにもスポーツが常に身近な存在であるべきかと感じています。

3として、「身近なスポーツ資源と連携した地域づくりの推進」です。総合型クラブはもちろんです。大学、民間企業と地域の連携に取り組んでいきたいと思っています。大学については、専門的な知識・情報、施設が充実しています。本県においては、体育スポーツを専門とする大学が多く存在します。また、民間企業においてもそこを拠点としたスポーツ活動を行うことでさらに基礎が向上する。あるいは、CSRという言い過ぎかもしれませんが、そういったものにも寄与する活動の一つになると感じています。

委員

プロスポーツとの連携に関しては、子供向けの活動が多いが、年に一回は、プロアスリートのパフォーマンスを見てもらうことはどうでしょうか。県内の児童をおよそ30万人として、6学年で割ると5万人になりますが、かなえ隊に、県内すべての、どこかの学年を年に1度は招くようなプログラムにまで持っていければよいと思っています。すぐにできる話ではないと思いますが、プロスポーツと連携しながら積み上げをしていけばいいと思うので、よろしくお願いします。

会長

これは、要望ですね。他にありますか。ちょっと質問ですが、習志野市にあるアメフトのチーム、オービックスシーガルズはプロではないのですか。プロとアマが混在していないか等、どのようなクラブが何をやれるかをこの中に組み込んでおいてもいいかと思います。

事務局

オービックスシーガルズは、トップリーグですがプロではありません。学校への派遣は、プロかどうかではなく、社会人のスポーツ団体としてトップリーグで活動しているかどうかで行っています。

会長

リンクFは、まだいくらでも取り組む中身があるでしょう。以上で、AからFまできたわけですが、私の方から一つ、第11次まで指標が示されていましたが、新しい目標、指標について何か考えていることはありますか。

事務局

指標につきましては、計画の素案の中には、一つの施策としてはまだ取り組んでいません。現時点の考え方を紹介させていただきます。

(資料配布)

参考ということで、資料を出させていただきました。ワーキング会議、ヒアリング等で何度かお話をさせていただいたところですが、まだ確定しておりません。表の見方ですが、リンクに合わせて、現在11次まで行っている。項目を入れまして、11次の27年度の数値、それに対する目標を表1、あと同じように国が出しているものに関しましては、26年度の資料で

すが、数値を入れてあります。右側に行きまして、県と国とありますが、第2期の計画の中で数値化されているものをピックアップしました。それを参考に、11次の計画と合わせまして、12次では、こんな項目でこういう数値になるのではないかというところで、数値を入れてあります。今後、皆さんに御意見をいただきまして、数値化したものをできれば年度末に出したいと思っています。

会長 これを委員の方が見て、何かあったら事務局に連絡するというところでいいですか。

事務局 御意見をいただきながら、3月に予定している今年度3回目の審議会の中で、それらを踏まえて計画の中に落とせる数字について、案という形でお示しをしていければと思っています。

会長 この数値をもうちょっと上げるということでしょうか。

事務局 例えば、競技力向上で国体の入賞を現在8位にしようということですが、今年度の成績から本当に8位でよいかどうか、そんな御意見を伺いながら一般の項目についても考えていきたいです。

会長 そうですね、ここのところ成績がいいので、5位ぐらいではどうでしょうか。冬のスキー、スケートの対応をもう30、40点上げたら、神奈川をぬき3位ぐらいになれるでしょう。東京、埼玉の次に来るのは難しいが、可能性はあります。埼玉は冬でかなりとっています。その辺は、目標値として考えてもいいと思います。

事務局 現段階で、目標値に7位と入っているの、これについても御意見をいただきたいです。

委員 私は、幼児教育をやっているの、順位にはこだわりません。さっきの話で、ドーピングを道徳教育でやっていくということなので、この中に「道徳」の文字がほしいと思います。道徳教育でドーピングしない、道徳教育でいじめがない、いくら強くても、時々高校野球でもいじめがあって出場停止になります。そのようなことがあっては元も子もないでしょう。そういう基礎的な、根本的にスポーツでも何でも人間関係ですから、老人クラブの人数が増えないのもそういうところになると思います。やはり人を敬った教育を、スポーツを、運動をするとかを原点に立ち返ってもらいたいです。確かに順位が上がったということも必要かもしれませんが、もっと大切な幼児教育、障害教育でもあっても、どこかにちょっとでも道徳という言葉がほしいなと思いました。Aのリンクをこういうふうに変えようという提案をいただいた時に、14ページの「幼児教育で育みたい10項目」と書いてあるところに、Aとして「道徳・規範意識の芽生え」というのがありました。このように、道徳教育を重視しているということを入れてもらえるとうれしいと思います。

委員 文言のイメージですが、第12次のキャッチコピーが、スポーツ立県とはどういうことか内容は書いてあるのですが、県民の皆さん方に、自分のこととして受け取ってもらった方がいいと思いますので、「みんなのスポーツの実現を目指して」とか、もう少し柔らかい方がいいと思います。スポーツ立国から来ていると思いますが、「スポーツ立県ちば」と言っても、たぶん一般の方々には何となくスポーツでくらいのイメージしかわからないと思うので、平易な言葉にしたら

どうかと思います。今、スポーツ庁のガイドラインが作成されていますが、もしかしたら、そこらもみんなのスポーツという言葉が入っているかもしれないので、リンクしていくのもいいと思います。

会長 計画ができあがると、変更できませんので、今のうちですね。予定した内容は以上ですので、議長の任を解かせていただきます。

事務局 荒川会長、長時間にわたり、進行ありがとうございました。
ここで、神子教育次長から皆様にお礼の言葉を申し上げます。

教育次長 本日は、様々な観点から委員の皆様には、慎重な御審議、貴重な御意見をたくさんいただきまして本当にありがとうございました。

今後、皆様方からいただいた御意見は、第12次に反映させる作業を進めていきますが、今回の計画は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツの推進という後にも先にも、この時期だけある柱を作っていくこととなります。そういう貴重な機会を生かして県民の体育・スポーツに関する興味・関心をさらに高め、またそのニーズに応えるということで、千葉県のスポーツ・体育一層の推進を目指してまいりたいと思います。

次回、3月10日の審議会で最終になるということですが、その間も皆様にお力添えをいただきたいということで、どうぞよろしく願いいたします。本日は、誠にありがとうございました。

事務局 ありがとうございました。第3回の審議会につきましては、平成29年3月10日、金曜日の14時から、この場所になります。内容としては、平成28年度の報告、第11次推進計画5ヶ年の総括、そして第12次の最終案の御審議をいただく予定です。よろしくお願いいたします。

現時点でご都合のつかない方は、お知らせいただければ助かります。それから今後の予定ですが、第12次につきましては、本日いただきました意見を反映しまして12月にパブリックコメントを行います。そして、関係者等の御意見を踏まえまして、2月の中旬くらいに委員の皆様方に送りまして、御検討をいただきたいと考えています

以上で、平成28年度第2回千葉県スポーツ推進審議会を終了いたします。